科目名	外国語②			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Foreign Language			総時間数	30	単　位	2
学　年	２年	学　期	前期	曜　日	金	時　限	2

担当教員	野元　昌	実務者経験	

学習内容	英語によるコミュニケーション方法を学ぶ。
到達目標	挨拶程度の会話ができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布プリント、テキスト『 Speak Now 1 』
留意点 備　考	

成績評価	期末試験100%で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	イントロダクション L.2&3　1How…	初対面の相手に対し、適切な挨拶ができるようになる。 自分のこと、相手のことを英語で述べられるようになる。
2	L.5&6 Can... L.8 Can ask for...	興味のあること・ないことについて述べられるようになる。 自分の意思を相手に伝えられるようになる。
3	L.9&10 Can Ask ... L.11&12 Can Ask ...	家族について会話ができる。 ファッションについて話し,相手のファッションについて褒めることがで出来る。
4	L.7,13, &14 Can Ask L.19&20 Can ask...	相手の答えに対して、質問をして会話をして会話を続けることが出来る。 道順や行き方について尋ねられるようになる。
5	L.21,L23 Can ask … L.27	料金について尋ね、説明できるようになる。代金の交渉ができるようになる。 食生活について、コミュニケーションを取れるようになる。
6	L.28 Can ask … L.29,30	食べ物の味を表現できるようになる。 過去の出来事について話すことが出来るようになる。
7	L.31 news L.32 the future	自分の意見を伝える、また相手の意見にリアクッション出来るようになる。 旅行や夢など、未来のことについて述べられるようになる。
8	学年末・総復習 EXAM	学年末試験の復習が自宅でもできるようになる。

科目名	統計学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Statistics			総時間数	15	単　位	1
学　年	２年	学　期	後期	曜　日	月	時　限	1,2時限

担当教員	山口　哲	実務者経験	

学習内容	統計学の概要を学ぶ。 エクセルを用いてデータの検定を行う。
到達目標	エクセル統計を用いて実験データの検定を行う。

準備学習 時間外学習	エクセルの基本操作が必要。
使用教材	『マンガでわかる統計学』（オーム社），『エクセル統計学』（オーエムエス出版），　配布プリント
留意点 備　考	エクセルの基本操作が求められる。

成績評価	期末試験100%で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	データの種類	度数分布表とヒストグラム，平均値，標準偏差，度数分布表の階級幅を理解する
2	基準値と偏差値，確率	基準値，偏差値，正規分布を理解する。
3	2変数の関連	単相関係数，相関比を理解する。
4	検定	エクセルを用いて具体的な検定ができる。
5		

科目名	コミュニケーション学			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Communication Studies			総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木曜	時　限	2

担当教員	矢部　有香	実務者経験	

学習内容	話す、聞くにとどまらず、話の組み立て方や伝え方を学ぶ
到達目標	医療人として、社会人として通用するコミュニケーション力を身につける 効果的なコミュニケーションの方法を体系的に理解する

準備学習 時間外学習	無し
使用教材	プリント教材
留意点 備　考	無し

成績評価	最終発表

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	話す・聴く	自己紹介発表、傾聴 演習を通じて、話すこと、聴くことの大切さを実感する。
2	伝える	グループワーク 演習を通じて、相手の立場に立った伝達スキルを身につける。
3	情報活用	グループワーク 演習を通じて、グループ内での話し合いや小社会を体験する。
4	発表	最終発表 これまでの授業を振り返り、今後の学びについて発表する。
5		

科目名	歯科技工管理学②(歯科技工士関係法規)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Laboratory Practice Administration 2 Law for Dental-technologist			総時間数	15	単　位	1
学　年	２学年	学　期	前期	曜　日	木	時　限	2

担当教員	倉田浩二	実務者経験	

学習内容	衛生行政、歯科技工士法、医療法、歯科医師法、歯科衛生士法、健康政策及びその他関連法規
到達目標	法律の概要を説明できる。 歯科技工士法のを説明できる。

準備学習 時間外学習	教科書をよく読むこと。新聞、テレビ、雑誌、インターネット等、社会現象や動向に関心を向けること。
使用教材	全国歯科技工士教育協議会 編集 歯科技工管理学Ⅱ 歯科技工士関係法規。
留意点 備　考	社会的現象や動向と法律との関係がないかどうか、関心を寄せること。

成績評価	筆記試験

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	衛生行政	法律の概要　　衛生行政の概要　　歯科衛生行政
2	衛生行政 歯科技工士法	歯科技工士と衛生行政の組織 歯科技工士法の成り立ち　歯科技工士法　総則　　免許
3	歯科技工士法	試験　　業務　　歯科技工所　　雑則・罰則・附則抄
4	健康政策と その他の関係法規	医療法･歯科医師法･歯科衛生士法、医療関係職種の法規、薬事衛生法規・ 保健衛生法規・予防衛生法規・労働衛生法規、社会保障関係法規、健康政策

科目名	顎口腔機能学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Stomatognathic Function Science			総時間数	15	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	月、金	時　限	1.5

担当教員	①湯本華帆 ②西本 廉	実務者経験	①歯科医師。令和7年3月～大阪大学歯学部附属病院で歯科治療に携わっている。 ②歯科医師。令和6年7月～大阪大学附属病院にて、歯科臨床に携わっている。

学習内容	歯科医師と歯科技工士が協力し生体に調和した形態で機能する補綴物を製作するために必要な、顎口腔機能及び顎口腔系を構成する生体の組織について学ぶ。
到達目標	顎口腔機能及び顎口腔系の構成について理解し、臨床の場で歯科医師との連携に実際に活用できる。 歯科技工士国家試験に対応できる。

準備学習 時間外学習	解剖学の予習を行うと好ましい。
使用教材	教科書「顎口腔機能学」（全国歯科技工士教育協議会編集）及び配布プリント
留意点 備　考	特記事項なし

成績評価	小テスト30%＋期末テスト70%

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	【１顎口腔系の形態】 【２顎口腔系の機能】	歯と歯列、顎口腔系を構成する骨･筋、顎関節 顎口腔系の機能と形態の維持、基準点･基準面、咬合に関する平面、下顎位
2	【３下顎位】 【４下顎運動】	下顎位 下顎運動の種類、下顎の基本運動･限界運動･機能運動
3	【６咬合器】 【７咬合検査と顎機能障害】	咬合器の使用目的、分類、フェイスボウトランスファー、咬合採得 咬合検査、顎機能障害
4	【５歯の接様式】	歯の形態と機能、咬頭嵌合位における咬合接触
5	【５歯の接様式】	偏心位における咬合接触、咬合干渉

科目名	矯正歯科技工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Technology for Orthodontic Appliances			総時間数	15	単　位	1
学　年	２年	学　期	前期	曜　日	木	時　限	2

担当教員	平木建史	実務者経験	歯科医師 昭和57年12月～歯科臨床に携わる、現在に至る。

学習内容	矯正歯科治療の意義を理解し、矯正装置の制作方法を学ぶ。
到達目標	矯正歯科治療の意義を理解し、矯正装置の制作方法を列挙できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	最新歯科技工士教本　矯正歯科技工学（医歯薬出版）
留意点 備　考	

成績評価	期末試験100%で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	矯正歯科技工学の意義と目的	矯正歯科治療とは
2	正常咬合と不正咬合（咬合異常）	正常咬合、不正咬合（咬合異常）、アングルの不正咬合の分類
3	矯正装置の必要条件と分類	矯正装置の必要条件、矯正装置の分類
4	矯正装置の製作法	舌側弧線装置、ナンスのホールディングアーチ　咬合挙上板、固定式拡大装置 ホーレーの保定装置、
5		

科目名	総合領域１			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Synthetic Studies 1			総時間数	60	単　位	4
学　年	２年	学　期	前期	曜　日	月～金	時　限	2, 1.5

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③倉田浩二 ④石田真里	実務者経験	

学習内容	学説国家試験で出題される８科目の講義を行い、２年時終了までに身につけておくべき知識を復習する。
到達目標	模擬試験合格水準

準備学習 時間外学習	８教科の復習が必要。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	模擬試験100%で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	模擬試験	１００問（４教科）の模擬試験の実施
2	解答と解説	歯科理工学
3	解答と解説	歯冠修復技工学
4	解答と解説	有床技祭儀工学
5	解答と解説	口腔顎顔面解剖学
6	模擬試験	１００問（８教科）の模擬試験の実施
7	解答と解説	歯科理工学、口腔顎顔面解剖学
8	解答と解説	歯冠修復技工学、歯科技工士関係法規
9	解答と解説	有床技祭儀工学、小児歯科技工学
10	解答と解説	顎口腔機能学、矯正歯科技工学
11	模擬試験	１００問（８教科）の模擬試験の実施
12	解答と解説	歯科理工学、口腔顎顔面解剖学
13	解答と解説	歯冠修復技工学、歯科技工士関係法規
14	解答と解説	有床技祭儀工学、小児歯科技工学
15	解答と解説	顎口腔機能学、矯正歯科技工学

16	解答と解説	有床技祭儀工学
17	解答と解説	歯冠修復技工学

科目名	総合領域２			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Synthetic Studies ２			総時間数	30	単　位	2
学　年	２年	学　期	後期	曜　日	月～金	時　限	2，1.5

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③倉田浩二 ④石田真里	実務者経験	

学習内容	学説国家試験で出題される８科目の講義を行い、２年時終了までに身につけておくべき知識を復習する。
到達目標	模擬試験合格水準

準備学習 時間外学習	８教科の復習が必要。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	模擬試験100%で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	模擬試験	100問（8教科）の模擬試験の実施
2	解答と解説	歯科理工学、口腔顎顔面解剖学
3	解答と解説	歯冠修復技工学、歯科技工士関係法規
4	解答と解説	有床技祭儀工学、小児歯科技工学
5	解答と解説	顎口腔機能学、矯正歯科技工学
6	解答と解説	歯科理工学、口腔顎顔面解剖学
7	解答と解説	歯冠修復技工学、歯科技工士関係法規
8	解答と解説	有床技祭儀工学、小児歯科技工学
9	解答と解説	顎口腔機能学、矯正歯科技工学

科目名	情報科学			必修/選択	必須	授業形式	演習
【英】	Information Processing			総時間数	30	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	月	時　限	2

担当教員	矢部　有香	実務者経験	

学習内容	Excelの基本的な関数、グラフ、データベース機能を学ぶ。 プレゼンテーションを理解し、効果的なスライド作成、アニメーション、発表技術を学ぶ。
到達目標	適切な種類でグラフを作成することができる。データベース機能を使用して、データ処理ができる。 プレゼンテーションに重要なものは何か理解し、見やすく効果的なスライド作成ができる。 発表技術を習得する。

準備学習 時間外学習	苦手な部分はすすんで復習すること。
使用教材	「イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル Office365・Office2019対応」（noa出版） 「考える 伝える 分かちあう 情報活用力」（noa出版）
留意点 備　考	無し

成績評価	Excel試験40%、PowerPoint試験40%、発表20%

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	Word Excel	Wordで抄録のひな型作成、Excelで関数 1年時に学習したWord・Excelの機能を再確認する。
2	Excel①	棒グラフ、円グラフ、複合グラフの作成 グラフの作成にとどまらず、より伝えるためのグラフが作成できる。
3	Excel②	並べ替え、オートフィルターなど、データベース機能 大量のデータを並べ替えたり抽出したり適切に処理ができる。
4	PowerPoint①	ワードアート、スライドマスター、アニメーション効果など、スライド作成 見やすく魅力的なスライドを作成できる。
5	PowerPoint②	色や図形の使い方、課題制作 スライド作成に生かせる色について理解する。
6	PowerPoint③	課題制作
7	PowerPoint④	課題制作
8	試験	発表、試験

科目名	歯の解剖学実習 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental anatomy 2			総時間数	45	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火	時　限	2, 1.5

担当教員	①倉田 浩二 ②高垣 翔平	実務者経験	②平成26年4月～臨床技工に携わり、現在に至る。

学習内容	歯の形態や機能、その周囲の組織を解剖的事項から、歯型彫刻･デッサンにより理解をする。
到達目標	歯の形態的特徴の理解と表現、及び右側歯型彫刻模型を参考に、時間を意識し左側歯型彫刻を完成させる。

準備学習 時間外学習	実習で使用する石膏棒の作製
使用教材	教科書『歯のデッサンと歯型彫刻』(関西北陸地区歯科技工士学校連絡協議会 編集) 配布プリント　歯型彫刻学習用拡大模型14本
留意点 備　考	副教材として『口腔・顎顔面解剖学』（全国歯科技工士教育協議会 編集）の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	学期末の実技試験により評価

授業計画【内容･目標】		
1	上顎左側中切歯	上顎左側中切歯　特徴説明　等倍大彫刻（80分）終了後作品講評
2	上顎左側犬歯	上顎左側犬歯　特徴説明　等倍大彫刻（80分）終了後作品講評
3	上顎左側第一小臼歯	上顎左側第一小臼歯 彫刻（80分）終了後作品講評
4	上顎左側第一大臼歯	上顎左側第一大臼歯 彫刻（80分）終了後作品講評
5	下顎左側第一小臼歯	下顎左側第一小臼歯 彫刻（80分）終了後作品講評
6	下顎左側第二小臼	下顎左側第二小臼歯 彫刻（80分）終了後作品講評
7	下顎左側第一大臼歯	下顎左側第一大臼歯 彫刻（80分）終了後作品講評
8	上顎左側犬歯	上顎左側犬歯 彫刻（60分）終了後作品講評
9	上顎左側第一小臼歯	上顎左側第一小臼歯 彫刻（60分）終了後作品講評
10	上顎左側犬歯 上顎左側第一小臼歯	模擬試験 2本（90分）終了後作品講評
11	上顎左側犬歯 上顎左側第一小臼歯	前期実技試験作品講評
12	上顎左側中切歯 下顎左側第一大臼歯	模擬試験 2本（90分）終了後作品講評
13	上顎左側中切歯 下顎左側第一大臼歯	模擬試験 2本（80分）終了後作品講評
14	上顎左側中切歯 下顎左側第一大臼歯	後期実技試験作品講評

科目名	顎口腔機能学実習			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Stomatognathic Function science			総時間数	45	単　位	1
学　年	2	学　期	前期・後期	曜　日	水	時　限	1.5

担当教員	①石田真里 ②田中利哉	実務者経験	②歯科技工士　平成10年1月～歯科技工所を開設、現在に至る。

学習内容	あらゆる動きの顎運動や咬み合わせの状態、口腔内の機能を理解し、調和のとれた補綴物作製に応用する。
到達目標	前期：半調節性咬合器を使用して各自の口腔模型をフェイスボウで装着し、チェックバイト法で顆路の調節を行う。 後期：下顎片側臼歯部の石膏を削除し、コーンテクニックを用いて１歯対１歯咬合のワックスアップを行う。

準備学習 時間外学習	各製作工程の目的を確認し、使用材料、器具の使用方法を復習する。 各自の口腔模型を使用して実習するので、顆路や歯列模型、咬合状態を観察する。
使用教材	『顎口腔機能学』最新歯科技工士教本、目で見る咬合の基礎知識(医歯薬出版)、および配布プリント
留意点 備　考	特記事項なし

成績評価	実習内容の復習テストで評価する。

回数	日程	時間数	授業計画【内容･目標】
1	フェイスボウ		実習講義　/　上下歯列の印象採得～台付け
2	フェイスボウ		スプリットキャスト作製　/　バイトフォークに咬合面印記
3	フェイスボウ		フェイスボウトランスファー
4	フェイスボウ		下顎模型の咬合器装着
5	フェイスボウ		前方チェックバイト、側方チェックバイト採得
6	フェイスボウ		矢状顆路傾斜角、側方顆路傾斜角の調節　/　顎口腔カルテの作成
7	フェイスボウ		実習内容の復習テスト　/　解答・解説
8	コーン テクニック		実習講義　/　下顎片側臼歯部を削除、ワックスバーの焼付け
9	コーン テクニック		ワックスアップ①咬頭頂
10	コーン テクニック		ワックスアップ②フィッシュマウス
11	コーン テクニック		ワックスアップ③三角隆線　/　④頬舌側面隆線
12	コーン テクニック		ワックスアップ⑤隆線間の間隙埋め
13	コーン テクニック		ワックスアップ⑥外形仕上げ

14	コーン テクニック	ワックスアップ⑦トーマスノッチ付与　/　咬頭嵌合位、臼歯離開咬合を確認
15	コーン テクニック	実習内容の復習テスト　/　解答・解説

科目名	歯科理工学実習			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Materials Science			総時間数	60	単　位	2
学　年	２年	学　期	後期	曜　日		時　限	2, 1.5

担当教員	①杉田順弘 ②石田真里	実務者経験	

学習内容	歯科技工に必要な材料、機械器具の取り扱いや測定方法を学ぶ。 実験レポートの書き方を学ぶ。
到達目標	実験レポートの提出

準備学習 時間外学習	歯科理工学の復習が必要。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	実験レポートで評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	実験概説	実験方法の説明、レポートの書き方
2	実験説明	使用器具の説明
3	実験説明	実験別に使用材料の特色説明
4	実験	石膏の硬化時間、石膏の圧縮強さ
5	実験	石膏の硬化時間、石膏の圧縮強さ
6	実験	石膏の硬化時間、石膏の圧縮強さ
7	実験	石膏の硬化時間、石膏の圧縮強さ
8	レポート作成	データの統計処理とレポート作成
9	実験	鋳造クラウンの適合性
10	実験	鋳造クラウンの適合性
11	実験	鋳造クラウンの適合性
12	実験	鋳造クラウンの適合性
13	レポート作成	データの統計処理とレポート作成
14	実験	床用レジンの適合性
15	実験	床用レジンの適合性

科目名	歯科理工学実習			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Materials Science			総時間数	60	単　位	2
学　年	２年	学　期	後期	曜　日	月～金	時　限	2, 1.5
授業計画【テーマ・内容･目標】							
16	実験	床用レジンの適合性					
17	実験	床用レジンの適合性					
18	レポート作成	データの統計処理とレポート作成					

科目名	有床義歯技工学 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Removable Dentures 3			総時間数	40	単　位	1
学　年	2	学　期	前後期	曜　日	木	時　限	1.5

担当教員	①大石直之 ②船渡善夫	実務者経験	②歯科技工士　昭和59年1月～歯科技工所を開設、現在に至る。

学習内容	部分床義歯の大連結子、維持装置の製作方法、および排列方法を習得する。
到達目標	常温重合レジンを用いて個人トレー、基礎床を製作し咬合床を完成する。 サベイングをもとに大連結子(リンガルバー)、維持装置を(クラスプ)を一連の工程を経て完成する。

準備学習 時間外学習	各製作工程の目的を確認し、使用材料、器具の使用方法を復習する。 製作方法を復習するとともに、自己作品と完成見本作品を比較し、形態や適合精度の違いを確認する。
使用教材	『有床義歯技工学』最新歯科技工士教本、歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)、および配布プリント
留意点 備　考	教本の掲載写真や図、教官の見本作品を参考に各工程での完成をイメージして実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	提出作品、後期の実技試験で評価する。

回数	授業計画【内容･目標】	
1	部分床義歯	ペーパーデザイン～サベイング～作業用模型に設計
2	部分床義歯	ブロックアウト～リリーフ
3	部分床義歯	咬合床(基礎床＋咬合堤)製作～咬合器装着
4	部分床義歯	リンガルバー&双子鉤 WAXup　※ ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾜｲﾔｰ屈曲
5	部分床義歯	スプルーイング～埋没
6	部分床義歯	リンガルバー&双子鉤鋳造　／　エーカース、コンビ舌側 WAXup～埋没
7	部分床義歯	エーカース、コンビ舌側　鋳造
8	部分床義歯	リンガルバー双子鉤、エーカース、コンビ舌側割り出し～ｻﾝﾄﾞﾌﾞﾗｽﾄ処理
9	部分床義歯	荒研磨～中研磨～適合
10	部分床義歯	リンガルバー双子鉤、維持装置　艶出し研磨
11	部分床義歯	サベイング～設計～ブロックアウト～表面硬化剤塗布～マウント完了まで
12	部分床義歯	リリーフ～リリーフ上に再設計完了 ／ 試験説明
13	部分床義歯	模擬試験　個人講評　⇒修正完了
14	部分床義歯	模擬試験　個人講評　⇒修正完了

科目名	有床義歯技工学実習 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Removable Dentures 2			総時間数	60	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	2

担当教員	①石田真里 ②前田博規	実務者経験	②歯科技工士　平成15年1月～歯科技工所を開設、現在に至る。

学習内容	総義歯の基本的な排列方法を習得する。
到達目標	人工歯排列、歯肉形成、口蓋ヒダ付与までを、制限時間（３時間）内に完成する。

準備学習 時間外学習	過去の基本実習の製作方法を復習するとともに、作品の修正と反復トレーニングを行う。
使用教材	『有床義歯技工学』最新歯科技工士教本、歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)、および配布プリント
留意点 備　考	教本の掲載写真や図、教官の見本作品を参考に各工程での完成をイメージして実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	提出作品、実技試験で評価する。

回数	授業計画【内容･目標】	
1	全部床義歯	実習講義　/　上顎前歯排列
2	全部床義歯	上顎臼歯排列
3	全部床義歯	下顎臼歯排列
4	全部床義歯	下顎前歯排列
5	全部床義歯	歯頸部ワックス盛り上げ　/　Ｓ字隆起、レトロモラーパッド付与
6	全部床義歯	上顎・唇頬側　歯肉形成
7	全部床義歯	下顎・唇頬側　歯肉形成
8	全部床義歯	口蓋ヒダ付与
9	全部床義歯	第１回模試（人工歯排列）　/　個人講評、手直し修正
10	全部床義歯	第１回模試（歯肉形成）　/　手直し修正
11	全部床義歯	第２回模試（人工歯排列、歯肉形成、口蓋ヒダ付与）
12	全部床義歯	第２回模試個人講評、人工歯排列、歯肉形成の手直し修正
13	全部床義歯	第２回模試個人講評、人工歯排列、歯肉形成の手直し修正
14	全部床義歯	前期実技試験用の咬合床咬合器装着、人工歯の準備
15	全部床義歯	前期試験結果の講評

科目名	歯冠修復技工学実習２			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations 2			総時間数	90	単　位	3
学　年	２年	学　期	前後期	曜　日	月･水･木･金	時　限	2, 1.5

担当教員	①高須賀千紘 ②榊原秀憲 ③伊東克浩	実務者経験	②歯科技工士　平成10年12月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ③歯科技工士　令和3年4月～歯科クリニックに勤務、現在に至る。

学習内容	知識・技術を歯科臨床の場面に適用し、理論と実践を結び付けて理解できる能力と技術力を習得する。 他者の意見を整理し、自分の意見を相手に伝達するために、基本的知識、技能および態度を修得する。
到達目標	各種の歯冠修復物に関する知識を学習し、歯冠修復物製作の技術を習得する。 レジン前装冠、ブリッジを製作することができる。

準備学習 時間外学習	教科書『歯冠修復技工学』（医歯薬出版）におけるブリッジの概要と種類、クラウンとブリッジの具備要件や製作を復習する。
使用教材	教科書『歯冠修復技工学』（医歯薬出版），『歯科技工学実習トレーニング本』（医歯薬出版），　配布プリント
留意点 備　考	歯の形を覚えるために、教科書『口腔･顎顔面解剖学』と専門雑誌『歯科技工』（医歯薬出版）・『QDT』（ｸｲﾝﾃｯｾﾝｽ出版）の掲載写真等を参考に実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	完成作品の提出後、前期実技試験を行い評価する。後期実技試験を行い評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】			時限
1	作業用模型の製作	歯科技工に必要な作業模型の製作材料の種類と特徴を説明できる。 クラウン・ブリッジの製作順序を説明できる。作業用模型を製作できる。	
2	作業用模型の製作	作業用模型を製作できる。	
3	咬合器へ装着	咬合器の使用手順と調節方法を説明できる。 作業用模型の製作法を説明でき咬合器に作業用模型を装着できる。	
4	ワックスアップ	歯のスケッチにより歯の形態を正確に描写できる。歯の形態を説明できる。ワックスアップの種類と方法を説明できる。レジン前装冠を製作できる。	
5	ワックスアップ	下顎の基本運動の種類と特徴を説明できる。レジン前装冠製作のワックスアップができる。ブリッジ製作のワックスアップができる。	
6	ワックスアップ	機能咬頭、非機能咬頭および被蓋関係を説明できる。レジン前装冠とブリッジ製作のワックスアップができる。ポンティックの要件と構造を列挙できる。ポンティックの種類と形態を説明できる。	
7	ワックスアップ	咬頭嵌合位と偏心位の咬合接触を説明できる。レジン前装冠を製作できる。ブリッジを製作できる。ポンティックの適用部位を説明できる。	
8	フレームデザイン	歯冠用硬質レジンと金属との接着の原理・方法を説明できる。歯科用CADソフトウェアを扱いフレームデザインができる。前装部の形態と接着法を説明でき窓開けができる。	
9	埋没	埋没材の種類・性質、埋没操作および鋳型加熱を説明できる。レジン前装冠を製作できる。ブリッジを製作できる。	
10	鋳造	合金の融解と鋳込み方法を説明できる。レジン前装冠製作の鋳造ができる。ブリッジ製作の埋没ができる。	
11	切削・研削・中研磨	切削・研削・研磨用材料と器械の取り扱い方を説明できる。レジン前装冠製作のメタル調整ができる。ブリッジ製作の鋳造～粗研磨ができる。	
12	メタルフレーム調整	フィニッシングラインの形態・形状を説明できる。連結法の種類、適応および用途を説明できる。メタルフレームの調整が出来る。	
13	実技模擬試験・講評	【実技模擬試験・講評】正しい言葉遣いで会話できる。適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。中切歯のワックスアップができる。	
14	前装材の築盛・重合	歯冠用硬質レジンと金属との接着の原理・方法を説明できる。。前装材の築盛・重合ができる。ブリッジ製作における連結法の種類、適応および用途を説明できる。	
15	前装材の築盛・重合	レジン前装冠とブリッジ製作におけるレジン築盛・重合ができる。	

科目名	歯冠修復技工学実習２			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations ２			総時間数	90	単　位	3
学　年	２年	学　期	前後期	曜　日	月･水･木･金	時　限	2, 1.5

授業計画【テーマ・内容･目標】		
16	前装材の形態修正	歯の形態を説明できる。レジン前装冠とブリッジ製作におけるレジン築盛・重合ができる。前装部の形態修正ができる。
17	前装材の形態修正	歯の形態を説明できる。レジン前装冠とブリッジ製作におけるレジン築盛・重合ができる。前装部の形態修正ができる。
18	研磨・作品提出	補綴装置の仕上げの、表面仕上げの意義と目的を説明できる。 研磨の意義と目的を説明できる。研磨法を説明できる。自己点検自己評価表の作成。
19	前期実技試験講評	【前期実技試験講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎中切歯のワックスアップができる。
20	作業用模型の製作	クラウンの製作順序を説明できる。作業用模型を製作できる。
21	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬①試験・講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。
22	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬②試験・講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。
23	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬③試験・講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。
24	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬④試験・講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。
25	後期実技試験講評	【後期実技試験講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第二小臼歯のワックスアップができる。

科目名	歯冠修復技工学実習４			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations 4			総時間数	100	単　位	3
学　年	２年	学　期	前期・後期	曜　日	月～金	時　限	2，1.5

担当教員	①杉田順弘 ②田中利哉	実務者経験	②歯科技工士　平成10年1月～歯科技工所を開設、現在に至る。

学習内容	審美修復の意義と目的を理解し、メタルボンドクラウン製作の基本的な技工操作を習得する。
到達目標	メタルボンドクラウンを完成させるために材料の特性を理解し、フレームをデザインし、陶材を取り扱う。

準備学習 時間外学習	1年時の歯冠修復技工学の復習が必要。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	作品の完成で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	作業用模型の製作	作業用模型を高い精度で扱える。 石膏流し　～　トリミング　～　ダウエルピン植立　～　二次石膏注入
2	作業用模型の製作	作業用模型を高い精度で扱える。 セパレート　～　トリミング　～　咬合器装着
3	ワックスフレームの製作	ワックスアップ（形態回復）ができる。 ワックスアップ
4	ワックスフレームの製作	ワックスアップ（形態回復）ができる。 ワックスアップ
5	ワックスフレームの製作	ワックスアップ（形態回復）ができる。 ワックスアップ　～　シリコンコア採得
6	ワックスフレームの製作	ワックスアップ（形態回復）ができる。 ワックスアップ　～　シリコンコア採得
7	ワックスフレームの製作	前歯部ベニヤタイプの開窓ができる。 マージン圧接　～　開窓　～　フィニッシングライン形成　～　ノブ付与
8	ワックスフレームの製作	臼歯部フルベイクタイプの開窓ができる。 マージン圧接　～　開窓　～　フィニッシングライン形成　～　ノブ付与
9	埋没操作	リン酸塩系埋没材を用いた埋没が出来る。 スプルーイング　～　埋没
10	埋没操作	リン酸塩系埋没材を用いた埋没が出来る。 スプルーイング　～　埋没
11	鋳造	高周波を用いた（酸素を用いた）鋳造が出来る。 加熱　～　鋳造
12	鋳造	高周波を用いた（酸素を用いた）鋳造が出来る。 加熱　～　鋳造
13	鋳造	高周波を用いた（酸素を用いた）鋳造が出来る。 加熱　～　鋳造
14	メタルフレームの製作	適合調整が出来る。 フィッティング　～　調整
15	メタルフレームの製作	焼付面の処理ができる。 メタル調整

科目名	歯冠修復技工学実習４			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations 4			総時間数	100	単　位	3
学　年	２年	学　期	前期・後期	曜　日	月～金	時　限	2，1.5

授業計画【テーマ・内容･目標】		
16	陶材築盛	陶材が扱える。 オペーク築盛・焼成
17	陶材築盛	陶材が扱える。 オペーク築盛・焼成
18	陶材築盛	陶材が扱える。 オペーク築盛・焼成
19	陶材築盛	陶材が扱える。 マージンポーセレン築盛・焼成
20	特別講義	「審美歯科のあり方と天然歯形態」 西村好美　先生
21	陶材築盛	陶材が扱える。 ボディ築盛・焼成
22	陶材築盛	陶材が扱える。 ボディ築盛・焼成　～　エナメル築盛デモ
23	陶材築盛	陶材が扱える。 エナメル築盛・焼成
24	陶材築盛	陶材が扱える。 形態修正
25	陶材築盛	陶材が扱える。 形態修正
26	陶材築盛	陶材が扱える。 形態修正　～　追加築盛・焼成
27	陶材築盛	陶材が扱える。 形態修正　～　グレージング
28	研磨	研磨ができる。 メタル研磨　～　完成

科目名	歯科技工実習２			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology　２			総時間数	30	単　位	1
学　年	２年	学　期	後期	曜　日	月～金	時　限	2，1.5

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③倉田浩二 ④石田真里	実務者経験	

学習内容	各専門教科ごとの実習でで学んだ技術を実践するために、総合的に複数教科に関る技術を理論と結び付けて理解する。
到達目標	総合的に複数教科に関る技術を理論と結び付けて理解する。

準備学習 時間外学習	各専門教科の実習の復習が必要。
使用教材	特になし
留意点 備　考	

成績評価	実習作品・レポートの提出で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	歯冠修復技工学	精度の高い模型製作
2	有床義歯技工学	品質の高い咬合床の製作
3	有床義歯技工学	ベラシアを用いた個性配列
4	有床義歯技工学	ベラシアを用いた個性配列
5	歯冠修復技工学	審美形態の表現
6	歯の解剖学	臨床形態を表現した石膏彫刻
7	歯冠修復技工学	精度の高い模型製作
8	有床義歯技工学	品質の高い咬合床の製作
9	有床義歯技工学	品質の高い咬合床の製作

科目名	歯科技工実習　4			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology 4			総時間数	120	単　位	4
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月～金	時　限	2, 1.5

担当教員	①髙須賀千紘 ②播本光平 ③嶋田圭佑 ④東　亮太 ⑤杉田雄飛	実務者経験	②歯科技工士　平成14年4月～臨床技工に携わる、現在に至る。 ③歯科技工士　平成21年4月～臨床技工に携わる、現在に至る。 ④歯科技工士　平成27年4月～臨床技工に携わる、現在に至る。 ⑤歯科技工士　平成24年4月～臨床技工に携わる、現在に至る。

学習内容	オールセラミッククラウンの材料の特性を理解し、フレームをデザインし、陶材を取り扱う。 CAD-CAMシステムを用いてジルコニアフレームのオールセラミッククラウンをデザインする。
到達目標	プレス型オールセラミッククラウン（e.max）を完成する。 CAD-CAMを用いてジルコニアフレームのオールセラミッククラウンを完成する。

準備学習 時間外学習	歯科理工学における陶材の材料特性の関連を復習する。 歯冠修復技工学におけるクラウンのフレーム形態を復習する。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	専門雑誌（歯科技工、QDT等）の掲載写真を参考に歯の色について予習して実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	完成作品で評価する。

回数	授業計画【内容･目標】	
1	特別講義	イボクラール大阪研修センターにてe.maxシステムの概要講義
2	e.max実習	模型製作
3	e.max実習	模型製作
4	e.max実習	ワックスアップ
5	e.max実習	ワックスアップ
6	e.max実習	ワックスアップ　～　スプルーイング
7	e.max実習	埋没　～　加熱　～　プレス
8	e.max実習	埋没　～　加熱　～　プレス
9	e.max実習	埋没　～　加熱　～　プレス
10	特別講義	小林守先生　「歯科技工のやりがい」
11	e.max実習	適合　～　調整
12	e.max実習	適合　～　調整
13	e.max実習	荘村先生　「CAD-CAMの現状と概要」
14	e.max実習	陶材築盛
15	特別講義	末瀬先生　「デジタル歯科技工の現状と概要」

科目名	歯科技工実習　4			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology 4			総時間数	120	単　位	4
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月～金	時　限	2, 1.5

回数	授業計画【内容･目標】	
16	e.max実習	陶材築盛
17	e.max実習	陶材築盛
18	e.max実習	陶材築盛
19	e.max実習	陶材築盛
20	e.max実習	陶材築盛
21	e.max実習	形態修正
22	e.max実習	形態修正
23	e.max実習	ステイニング
24	e.max実習	グレージング・完成
25	CAD-CAM実習	模型製作
26	CAD-CAM実習	模型製作
27	CAD-CAM演習	デザイン・設計
28	CAD-CAM実習	ジルコニアコーピング調整
29	CAD-CAM実習	陶材築盛
30	CAD-CAM実習	陶材築盛
31	CAD-CAM実習	陶材築盛
32	CAD-CAM実習	形態修正
33	CAD-CAM実習	グレージング
34	CAD-CAM実習	グレージング
35	CAD-CAM実習	グレージング・完成

科目名	歯科技工実習 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology 5			総時間数	70	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月火水木金	時　限	2, 1.5

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③倉田浩二 ④石田真里 ⑤前田博規 ⑥高橋康一 ⑦川本泰世 ⑧林 大介	実務者経験	⑤歯科技工士　平成15年1月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ⑥歯科技工士　昭和61年4月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ⑦歯科技工士　平成28年4月～臨床技工に携わり、現在に至る。 ⑧歯科技工士　平成8年4月～臨床技工に携わり、現在に至る。

学習内容	臨床的模型を用いて、製作スケジュールを各自が管理し、定められた症例の装置を完成する。
到達目標	・上下無歯顎に標準的な咬合床や部分床義歯を製作する。 ・上顎無歯顎症例に各工程を経て鋳造床を製作・完成する。シリコーン印象材を用いて耐火模型を製作し、高周波真空圧迫鋳造機でコバルトクロム合金を鋳造する。

準備学習 時間外学習	各製作工程の目的を確認し、使用材料、器具の使用方法を復習する。 製作方法を復習するとともに、自己作品と完成見本作品を比較し、形態や適合精度、機能性の違いを確認する。
使用教材	『有床義歯技工学』最新歯科技工士教本、歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)、および配布プリント
留意点 備　考	教本の掲載写真や図だけでなく、ＱＤＴ等の専門誌の技工物や教官の見本作品を参考に各工程での完成をイメージして実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	提出作品で評価する。

回数	授業計画【内容･目標】	
1	模擬臨床模型実習	上下無歯顎咬合床　　設計～リリーフ～ブロックアウト～レジン圧接
2	模擬臨床模型実習	上下無歯顎咬合床　　形態修正～咬合堤溶着～外形の調整～表面処理・完成
3	模擬臨床模型実習	部分床義歯：人工歯排列～咬合調整
4	模擬臨床模型実習	部分床義歯：歯肉形成
5	模擬臨床模型実習	部分床義歯：フラスコ埋没
6	模擬臨床模型実習	部分床義歯：脱蝋～重合
7	模擬臨床模型実習	部分床義歯：粗研磨～中研磨
8	模擬臨床模型実習	部分床義歯：仕上げ研磨・完成
9	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：設計～リリーフ・ブロックアウト
10	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：シリコーン印象材による複印象採得
11	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：耐火模型の製作～乾燥・表面処理
12	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：ワックスアップ
13	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：スプルーイング～埋没

14	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：鋳造
15	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：割出し～スプルーカット～サンドブラスト処理

科目名	歯科技工実習 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology 5			総時間数	70	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月火水木金	時　限	2, 1.5

回数	授業計画【内容･目標】	
16	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：粗研磨(形態修正)
17	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：粗研磨(形態修正)～中研磨
18	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：中研磨
19	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：仕上げ研磨・完成チェック
20	模擬臨床模型実習	鋳　造　床：作品の自己評価アンケート記入・提出

科目名	矯正歯科技工学実習			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Orthodontic Appliances			総時間数	30	単　位	
学　年	2	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	3･4時限

担当教員	①石田真里 ②小幡宗功	実務者経験	②歯科技工士　平成15年4月～臨床技工に携わる、現在に至る。

学習内容	矯正装置の意義と目的を理解し基本的な製作方法を習得する。
到達目標	各自の口腔模型を用いてホーレーの保定装置を製作する。 複式弾線が鑞着された舌側弧線装置を製作する。

準備学習 時間外学習	各製作工程の目的を確認し、使用材料、器具の使用方法を復習する。 各自の口腔模型で製作する装置は装着感を体験し、自己作品と臨床作品を比較し違いを確認する。
使用教材	『矯正歯科技工学』最新歯科技工士教本(医歯薬出版)、および配布プリント
留意点 備　考	教本の掲載写真や図、教官の見本作品を参考に各工程での完成をイメージして実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	提出作品で評価する。

回数	授業計画【内容･目標】	
1	ホーレーの保定装置	実習講義 / 上下歯列の印象採得～台付け
2	ホーレーの保定装置	アダムスのクラスプ屈曲
3	ホーレーの保定装置	接歯唇側線の屈曲
4	ホーレーの保定装置	模型をブロックアウト、ボクシング / レジン築盛
5	ホーレーの保定装置	荒研磨、中研磨、仕上げ研磨 / 口腔内に装着体験
6	舌側弧線装置	実習講義 / 維持バンドに維持チューブを鑞着
7	舌側弧線装置	STロック　脚部の屈曲 / 主線の屈曲
8	舌側弧線装置	主線と脚部の鑞着、研磨
9	舌側弧線装置	自在鑞付けの模擬練習　(主線に補助弾線90°、45°)
10	舌側弧線装置	主線に複式弾線を自在鑞付け、研磨、屈曲、完成